

2012年度 事業計画書

(2012年4月1日～2013年3月31日)

I. 事業計画

2012年度 活動テーマ

日本ヒーブ協議会の原点再考 —会員・企業の更なるネットワーク構築を目指して—

2011年度は、「日本ヒーブ協議会の原点再考—生活者・企業・行政・消費者（関連）団体との「連携」と「協働」を目指し、ヒーブとしての役割を探る—」を活動テーマとし、ヒーブの一人ひとりが、本来の原点である「新しい価値を創造・提供し、生活者の利益および企業の健全な発展に寄与する使命」をあらためて確認し、“生活者と企業のパイプ役”として活動してきた。

2012年度も「日本ヒーブ協議会の原点再考」に引き続き取組み、生活者と企業のパイプ役としての使命を果たすため、「—会員・企業の更なるネットワーク構築を目指して—」をテーマとした。創立当初より、多くの先輩・会員が培ってきた本会の意義や役割を再認識するとともに、生活者と企業のパイプ役として求められている活動を今一度再考し、会員の能力向上に向けて取組むとともに、会員間の交流の場をより積極的に創出していきたい。

また、企業の消費者関連部門等に働く女性が集う日本ヒーブ協議会だからこそできる生活者視点を追及し、会員同士が研鑽できるよう各行事や活動の運営を企画・推進していきたい。

協議会運営にあたっては、会員減少が続くなか、現状を真摯に受けとめ、活動活性化へ向けて努力するとともに創立35周年に向けての取組みに邁進していきたい。

【活動方針】

- ① 先輩ヒーブに学ぶとともに、会員・企業間の交流を積極的に推進し、活動活性化へ向けて取組む。
- ② 生活者・企業・行政・消費者（関連）団体との連携を深め、社会への情報発信を行う。
- ③ 会員・賛助会員の確保及び安定的な組織運営体制づくりに取組む。
- ④ 賛助会員による情報提供の機会を創るとともに、企業活動に学ぶ機会を創る。
- ⑤ 消費者関連行政機関や大学等における情報提供の場に参画し、企業及び協議会活動を紹介する機会を創る。

2012年4月25日

2012年度代表理事 細島 芳

企画グループ

活動目標

- ・生活者と企業のパイプ役として、会員がより良い仕事をするための能力向上を図る。
- ・会員が、業種、職種、年齢を超えたヒーブのネットワークを活用できるようサポートする。
- ・会員一人ひとりがヒーブとしての活動目標を持ち、積極的に使命を果たせるようサポートする。
- ・ヒーブ協議会（以下協議会とする）の認知度を高め、広く活動内容を公開し、様々な分野との交流を深める。
- ・会員拡大に取り組み、活力ある組織運営を図り、有意義な活動を継続的に行うことにより、ヒーブとしての責任を果たす。

1. 活動目的

- (1) 代表理事の諮問機関として、代表理事を補佐し協議会運営が円滑に行われるよう努める。
- (2) 各支部が活動テーマを踏まえながら、地域性を活かしながら運営できるよう支援する。
- (3) 協議会の代表として、他団体、省庁、オピニオンリーダー等との交流を積極的に行い、情報交換に努めるとともに、協議会の存在・活動を社会にアピールする。
- (4) 協議会を中長期に展望し、今後の活動方向を検討し改革を推進する。
- (5) 優れたヒーブ会員の育成を図るため、自主的な研究活動を支援する。また、個々のヒーブの働きを社会にアピールする。
- (6) 協議会のシンクタンクとしてテーマを定めた基礎研究を進め、情報の蓄積を図り、その成果を継続的に社会に発信する。

2. 活動内容

- (1) 今年度のテーマに則り、協議会全体が効果的に活動できるよう推進する。
- (2) 時代に合った協議会運営ができるよう組織や運営についての改革を推進する。
- (3) 関西・九州支部の運営委員と適時会合をもち、支部活動の効率的な運営を図る。
- (4) その他、期中に発生する課題や提案に応えるための企画・支援を行う。
- (5) 生活者・企業・行政・消費者（関連）団体との「連携」と「協働」を目指し、活動推進を図る。
- (6) ヒーブコレクション（ヒーブバック）の管理及び販売を支援する。

研究会推進グループ

1. 活動目的

- (1) 会員の能力向上
会員一人ひとりが「知識」「スキル」「感性」を磨き、その成果を会員・企業・社会にフィードバックできるよう研究会・見学会・分科会等を企画・運営する。
- (2) 協議会活動への参加促進
分科会・自主研究活動を推進し、会員が、ヒーブ協議会の活動に積極的に参加できる環境

づくりを目指す。

- (3) 会員相互のコミュニケーションの促進・支援
 企業間・会員間の交流を支援し、ネットワークの強化を図る。

2. 活動内容

(1) 月例研究会・公開講座の運営

- ・有識者・企業・行政等による講演会、企業見学会、キャリアアップセミナーなどを中心に月例研究会を企画・運営する。
- ・月例研究会を公開講座として企画・運営する月を適宜設け、協議会の対外的な認知を高めるとともに会員の拡大に取り組む。(開催月は別途検討)
- ・開催スケジュール (予定)

講演会 (公開講座含む)	4月 5月 6月 7月 10月 11月 1月 2月 3月
キャリアアップセミナー	9月
見学会	11月
分科会・自主研究会	適宜開催

(2) 総会・記念講演会の運営

年1回開催する総会及び記念講演会を企画・運営する。

(3) 分科会・自主研究会活動の推進・運営

- ・ネットワーク醸成の場として参画型の分科会を主軸に開催し、会員が年間を通じて共通のテーマの下に自主的に集い研究する会の活動を支援し、より良い運営方法を企画・検討する。
- ・研究成果を会員に報告するとともに、企業や社会に対しての情報提供を支援する。
- ・開催スケジュール (予定)

分科会	5月 6月 7月 9月 10月 11月 1月 2月 3月
自主研究会	随時

組織の活性化を図るグループ

1. 活動目的

協議会の活性化を目的として、協議会の基盤整備を行い、会員自らが積極的に活動できるように支援する。

2. 活動内容

(1) 会員の管理と拡大

- ・会員ならびに特別会員情報を定期的に更新するとともに適切な管理を行い、円滑な協議会運営を推進する。
- ・異業種交流のメリットを活かすために、会員名簿の簡易版作成ならびに情報更新を行う。

(2) 諸規則の見直し

内規類 (各グループ・支部管轄) の見直しと整理の実施。2011年度に行った内規類の

見直しを引き続き検討し整備する。

(3) グループ活動の推進

- ・協議会の組織や運営業務を明文化し、より多くの会員が協議会運営に関われるよう各グループの下に組織されるグループメンバー制度の浸透を図る。
- ・選挙管理委員会、プロジェクトを擁立する場合は、会員から募集を行うとともに実施結果を会員にフィードバックする。

(4) 交流会の開催

会員同士が交流を図れるよう交流会を月例研究会等にあわせて積極的に開催する。

(5) 新会員へのガイダンス

協議会に関する理解を深めるため、協議会活動について5月の月例研究会またはその前後で説明を実施する。

(6) 「理事会だより」のHP掲載

理事会の議題の中からトピックスをまとめ、会員に報告する。

(7) 理事・監事選挙

選挙管理委員会を組織し(会員情報調査の際に併せて公募)、選挙活動が滞りなく進むよう補佐する。

広報グループ

1. 活動目的

- (1) 協議会の存在及びその活動を広く外部に報せ、理解促進及び認知度向上を図る。
- (2) 生活者と企業のパイプ役を果たす場を支援し、生活者と直接交流を図る活動を促進する。

2. 活動内容

(1) 情報発信

- ・マスコミに向けて協議会の活動を積極的に発信し、協議会の認知及び理解を高めるとともにマスコミからの問い合わせに対応する。
- ・会員に対し、協議会の活動を効果的に知らせ、理解を高めることにより活動の促進を図る。

(2) パンフレットの作成

協議会の活動目的と活動内容及び参加企業を広く紹介するためのツール(小冊子)「What is ヒーブ?」を年1回、機関誌「レポートヒーブ」を年2回作成する。

(3) ホームページの運営

- ・協議会と社会のインターフェイス機能として、外部へ協議会活動をタイムリーに発信するために情報収集を行い、充実した魅力あるページづくりを目指す。
- ・「メンバーズオンリー」ページにて月例研究会の案内など会員への情報提供を迅速に行い、会員間のコミュニケーションや情報収集に役立つページとして充実させる。

(4) 生活講習等

- ・講師の派遣等を通じて、生活に役立つ生活情報を提供し、協議会の社会的認知度を高める。

調査グループ

1. 活動目的

- (1) 協議会の活動に沿い、社会や会員企業に役立つ生活者情報を収集する。
- (2) 収集した情報を分析し、会員の業務に役立てる。
- (3) 調査結果を広く社会に発信し、協議会の認知度アップに繋げる。
- (4) 働く女性のリーディング集団として、「働く女性と暮らしの調査」を定期的実施し、その経年変化を追って社会に提言する。
- (5) 時代の経過とともに変化する「働く女性と暮らしの調査」そのものの中長期的ビジョンを探る。

2. 活動内容

- (1) 調査の継続に耐えうる基本フレーム作りとして、調査の構成要素率を定める。継続性を重視した「定点部分」及びテーマ性を重視した「各回可変部分」を2つの柱として調査票の質問項目等の選定を行う。
- (2) 第9回調査の実査を行い、調査結果の集計及び分析を行うとともに、公開方法についても検討する。
- (3) 今年度の活動が、今後の調査活動の基本パターンとなるよう実施し、活動内容を文書化する。

関西支部

1. 活動目的

- (1) 月例研究活動を通じて、会員一人ひとりがヒーブに求められている資質である現状認識から問題発見し、解決に至るまでのプロセス管理、またそれを他者へ発信するプレゼンテーション力など様々な能力向上を目指し活動を行う。また、活動を通じ会員間のコミュニケーションを深めることで人間関係の構築やその関係性をベースとしたレベルアップを図る。
- (2) 会員一人ひとりが上記の内容を実践し、その成果を会員自らの企業へ持ち帰り情報や成果の共有を図り、ヒーブの存在価値を高める。
- (3) 合同月例研究会を通じて、支部を超えた会員相互のコミュニケーションを図るとともに地域で躍進する企業と生活者のよりよい関係性を学ぶ。

2. 活動内容

- (1) 月例研究会活動
 - ・会員の資質向上のみならず、業務へのフィードバックができる内容にし、会員・会員企業にとって役立つ研究会活動を目指す。
 - ・引き続きセミ公開の研究会を多く開催し、会員以外の方にも参加いただき会員企業への貢献度を高める。
 - ・月例研究会のチーフを中心とし、各チームで、講師交渉・案内状作成・会場手配から当日の運営、報告書の作成までを担当する。

(2) 広報活動

- ・ACAPとの合同月例、消費者関連団体との交流によりヒーブの認知度を高め、新規会員獲得に繋げる。

(3) 組織活動

- ・会員の協議会に対する理解を深め、積極的に会員活動が行えるよう、ガイダンスミーティング、ふれあいミーティング（ランチ・ディナー）を継続して行う。
- ・協議会の活動は会員一人ひとりの参加からなることを改めて認識し、全員参加型の活動に繋げる。
- ・会員間の業種・職種を超えた“ネットワークづくり”を促進する。

九州支部

1. 活動目的

- (1) この2年間取組んできた“対話を生み出す場”づくりで、企業と生活者との間に表出する“対話”の中身を掘り下げる手法として、昨年は「ヒーブカフェ」を学んできた。本年度は生活者と企業の距離を縮めるために「伝える」というキーワードを導き出し、対話のためにも、企業理念などを土台にしたメッセージ、信頼回復に向けたお客さまへのメッセージなど、生活者はもちろん、社員にも何をどう伝えるのかという、発信力を磨きたい。そこで、副題として『2012“伝える力”が企業を、地域を、生活者を変える』として、誰に対して何をどのように訴えかけるのかを明確にし、昨年度に学んだヒーブカフェの手法などを用いながら活動する。
- (2) 九州支部会員の減少に伴い、今一度、「ヒーブとは、ヒーブの活動で得られるものは何か」を明解に答えられる活動内容としたい。それによって、生活者にも企業にも貢献できるヒーブをアピールし、新規会員、賛助会員企業を増やすための一助とする。

2. 活動内容

(1) 月例研究会活動

- ・会員全員が運営に携わりつつも、役割を明確にする。
- ・年間活動テーマのもと、少人数の会員数でできるよう公開講座1回、月例研究会3回程度に絞り込む。

(2) 広報活動

- ・ヒーブのOB会員との連絡網を見直し、交流の機会を確立した上で、サポートや広報活動をお願いする。
- ・県や市の男女共同参画担当者やマスコミとの連携を深めネットワーク化を図るために、情報交換に注力する。
- ・マスコミへの連絡網を整理し、全員が連絡・確認できる体制を目指す。

(3) 組織活動

- ・新入会員への「ガイダンスミーティング」の実施や、個人会員にも活動内容、手順等の説明を確実に言い、積極的な参加を促す。

- ・ 会員企業の協議会に対する理解を高めるために、公開講座においては、興味を抱ける内容とし上司、同僚の参加を呼び掛ける。

以上

Ⅱ. 予算

1. 一般会計 ＜収入の部＞

(単位：円)

科 目	金 額	
前 期 繰 越 金		2,455,462
会 費		
正 会 員 110 名	6,600,000	
個 人 会 員 10 名	180,000	
小 計		6,780,000
入 会 金		
正 会 員 2 名	60,000	
個 人 会 員 3 名	10,000	
小 計		70,000
賛 助 会 費 38 口	1,900,000	1,900,000
雑 収 入		
預 貯 金 利 息	1,000	
特 別 例 会 費	970,000	
特 別 会 員 寄 付 金	0	
そ の 他	59,000	
小 計		1,030,000
収 入 合 計		9,780,000
総 合 計		12,235,462

<支出の部>

(単位：円)

科 目	金 額	
活 動 費		
企画活動	207,000	
研究会推進活動	2,700,000	
組織の活性化を図る活動	279,000	
広報活動	1,048,000	
調査活動	296,000	
小 計		4,530,000
※活動費の地域別内訳		
	東京 3,059,000	関西支部 1,050,000 九州支部 421,000
運 営 費		
地代家賃	990,000	
人件費	2,000,000	
コンサルタント費	420,000	
通信費	260,000	
交通費	610,000	
会議費	10,000	
消耗品費	65,000	
保守料	130,000	
支払手数料	26,000	
水道光熱費	70,000	
運賃	80,000	
賃借料	477,000	
租税公課	82,000	
雑費	10,000	
交際費	20,000	
小 計		5,250,000
支 出 合 計		9,780,000
正味財産増減額		0
前期繰越金		2,455,462
総 合 計		12,235,462

2. 特別会計

<支出の部>

(単位：円)

科 目	金 額
35周年記念プロジェクト	30,000